

現代上下水道の

人物50傑

18



海渕 養之助

明治39年(1906年)~昭和52年(1977年)

海渕養之助氏は、明治39(1906)年11月石川県加賀市に生まれ、京都帝国大学工学部土木工学科を昭和5(1930)年に卒業後、京都市役所に勤務した。およそ13年間の京都市勤務の後、約2年間、民間会社に勤務している。ご本人から直接聞いたわけではないが、竹筋コンクリートの船の計画をされた

度終戦直前の物資のない時代でもあったことを思うと、そんな

下水道技術発展に貢献した技術界の重鎮

経験もしたのである。最近土木学会で学生によるコンクリート

力又一大会が開催されているが、70年程前に

鳥羽処理場の設計にも携わり、昭和10(1935)年に着手した。

下水処理場の建設にかかわった。

下水処理場の建設にかかわった。

とのものである。勤務した民間会社の中に造船会社があり、丁

そのルーツがあったわけである。

京都市役所では、吉祥院処理場の設計に従事し、運転管理にも携わった。氏の思い出話によるとあれやこれや外国の例を参考にされたそうである。ついで

水道資源利用の事例ではなからうか。